

令和2年5月13日

安全指導の日について

東京都立大島海洋国際高等学校
校長 川口 元三

本校は、毎年5月13日を「安全指導の日」としています。2・3年生は理解していると思いますが、本日はこの「安全指導の日」について考えて欲しいと思います。

今から25年前の平成7年5月13日土曜日の午後、本校の前身である大島南高校時代に痛ましい水難事故が起きました。当日は休日で、寄宿舎生19名が差木地漁港へ行き、その内12名が堤防の最上部から順次海に飛び込みました。列をなして陸へ泳ぎ始めましたが、波やうねりが押し寄せ、溺れる生徒が続出しました。12名と遭難直後に飛び込んだ1名の生徒のうち、2名は自力で陸へ泳ぎ、7名は漁船に救助されましたが、1名は搬送先で死亡が確認され、2名は翌日遺体で発見され、1名は行方不明という悲しい結果になりました。亡くなった3名の生徒と行方不明の生徒1名はいずれも入学したばかりの1年生でした。

その後、行方不明の生徒を海洋科の教員が小型実習船等で捜索を行いました。この時、地元の漁業関係者やダイバーの方々にも協力していただきました。懸命に捜索しましたが、残念ながら発見することはできませんでした。

本校正門を入るとすぐに、慰霊碑があります（上記内容が刻まれています）。毎年5月13日は、全校集会での講話の後、慰霊碑の前で黙とうを行っています。心より4名の方のご冥福をお祈りするとともに、このような事故を二度と起こさないようにしなければなりません。

本日は「命の大切さ」を考える日です。現在、新型コロナウイルス感染症により、多くの方が亡くなっています。「自分の命」、「家族の命」、「友人の命」等かけがえのない命を大切にすることを考えてください。

